

GDP 年率 5.4% 増 21年、3年ぶりプラス

10～12月期

内閣府が十五日発表した二〇二一年十一・十二月期の国内総生産（GDP、季節調整値）速報値は、物価変動を除く実質で前期比1・3%増、このペースが一年間続くと仮定した年率換算は5・4%増だった。プロ

うにない。ガソリンや食品の値上げに加え、ウクライナ情勢の緊迫化などの懸念材料もあり、感染状況次第ではマイナス成長に転落する恐れがある。

二二年十一・十二月期は、新型コロナの感染状況が落ち着いていた時期で、緊急事態宣言の全面解除を受け個人消費が前期比2・7%増となるなど回復した。同時に発表した二二年の実



質GDPは前年比1・7%増で、三年ぶりのプラスだった。山際大志郎経済再生担当相は十五日の記者会見で、「二二年十一・十二月期の実質GDPが『おおむねコロナ前の水準まで回復した』と述べた。金額は年率換算で五百四十一兆円となり、コロナ流行前の一九年十一・一二月期（五百四十二兆円）をわずかに下回る水準だつ

た。米国やユーロ圏は既にコロナ前水準を回復しており、日本の遅れが浮き彫りとなつた。米国やユーロ圏は既にコロナ前水準を回復しており、日本の遅れが浮き彫りとなつた。輸出は1・0%増。自動車や半導体製造装置などの生産用機械が増えた。輸入は0・3%減だった。景気実感に近いとされる名目GDPは0・5%増、年率換算で2・0%増だった。